

名誉総裁表彰を受けて

愛知県水難救済会

伊勢湾東部地区海難救助連絡協議会

鬼崎漁業協同組合救難支所 竹内政藏

鬼崎漁業協同組合救難支所は、愛知県知多半島中央部の伊勢湾に面した鬼崎漁港にあつて、西之口、蒲池、榎戸、多屋の四地区からなり、この地方の沿岸漁業、浅海養殖業の中心港となっています。同組合には

約一六〇名の正会員が所属しております、主に小型底引き網漁業、刺し網漁業、浅海養殖業（海苔）等を営んでおります。また、漁港の沖合には、平成十七年二月に開港した中部国際空港（愛称は「セントレア」）があります。

昨年の十二月、愛知県常滑市沖で、旅客船が乗り上げて航行不能となつた海難事故における救助作業の功績が認められ、平成

十八年五月十八日、東京の海運クラブで開催された（社）日本水難救済会名誉総裁表彰式典において、名誉総裁の高円宮憲仁親王妃

久子殿下から直接、名誉総裁表彰盾を授与されました。

表彰功労の内容は、同月三日の午後七時二十分頃、旅客船（一〇四トン、船員四名、乗客四二名乗船）が、中部国際空港の見学を終えて帰路の途中、同空港の沖合約一、六キロに設置された海苔養殖網に乗り上げ、航行不能となり、同船の乗員、乗客を救助したことです。

当時は、夜間強風の悪条件に加え、乗り上げ現場付近には、海苔養殖網が隙間なく設置され、また、水深が浅いため、巡視艇による接近ができず、救助作業が極めて困難な状況がありました。

鬼崎漁業協同組合救難支所として、救助出動要請を受けるや、直ちに救助員を非常呼集し、救助船四隻を出動させ救助に向かいました。



表彰状授与の状況

現場では月明かりもなく闇夜であつたため、乗り上げている旅客船の明かりと救助船のわずかなライトが頼りで、救助船三隻を慎重に海苔養殖網の隙間に進入させて旅客船に接近のうえ接舷、三隻が交替で乗船者を自船に移乗させるという作業を進め、沖合に待機させたもう一隻の救助船は、三隻の救助船で運ばれてきた乗船者を自船に再移乗させ、海難現場と同空港の公共桟橋

の間を反復輸送するという救助作業を翌四日の午前零時過ぎまで行い、乗客などを無事救助することができました。この間、救助する所員にも怪我なく救助作業を無事完了することができたのは、所員が気持ちを一つにして、細心の注意を最後まで維持しながら全力で当たつたことだと思っていました。

地元に戻りまして、名誉総裁表彰を所員一同に見て貰い、受賞したことの喜びを皆で分かち合いました。

また、表彰式典に引き続いて行われた祝賀会では、間近で名誉総裁の久子殿下から温かい労いのお言葉を賜り、大変に感激しました次第であります。更に、国土交通大臣や海上保安庁長官、日本水難救済会会长等多くの方々からお祝いのお言葉を頂くとともに、気さくにお話しができましたことは、生涯の大きな思い出となり、心から感謝と感激の想いを強くした次第です。

我々にとりましては、今回の受賞がこれから活動に極めて大きな励みと誇りになりました。今回の受賞を機に、水難救済会

の崇高な目的と使命を今一度心に刻み、心新たに活動してゆきたいと思っております。誠にありがとうございました。

福岡県水難救済会 福吉救難所長

長田 武文

このたび、このような名誉ある表彰をしていただきまして、所員一同、大変嬉しく思っております。

この受賞が、所員の団結を深め、これらの活動がより一層円滑なものになると信じております。

そして、何よりも自分達から事故を起させぬように心掛け、「名誉総裁表彰」の名に恥じることのないよう、所員とともに頑張っていきたいと思っております。

今回、私ども、福吉救難所の海難救助を選んでいただきました日本水難救済会はじめ、関係者の皆様方、本当にありがとうございました。



受賞者代表謝辞を述べる長田さん